

平成23年度連携排砂に伴う 環境調査計画（案）について

～ 目 次 ～

1 . 調査の基本的な考え方について	1
2 . 調査調査の変更点	2
3 . 調査内容	4
4 . 調査位置図	5
5 . 過年度環境調査一覧表	7

調査の基本的な考え方

- (1) 環境調査の基本的な考え方は、平成8年度から継続的に行っている調査と同じである。
- (2) 環境調査は、定期調査(排砂・通砂期の前・後の平常時)と排砂・通砂・試験通砂中の調査よりなる。

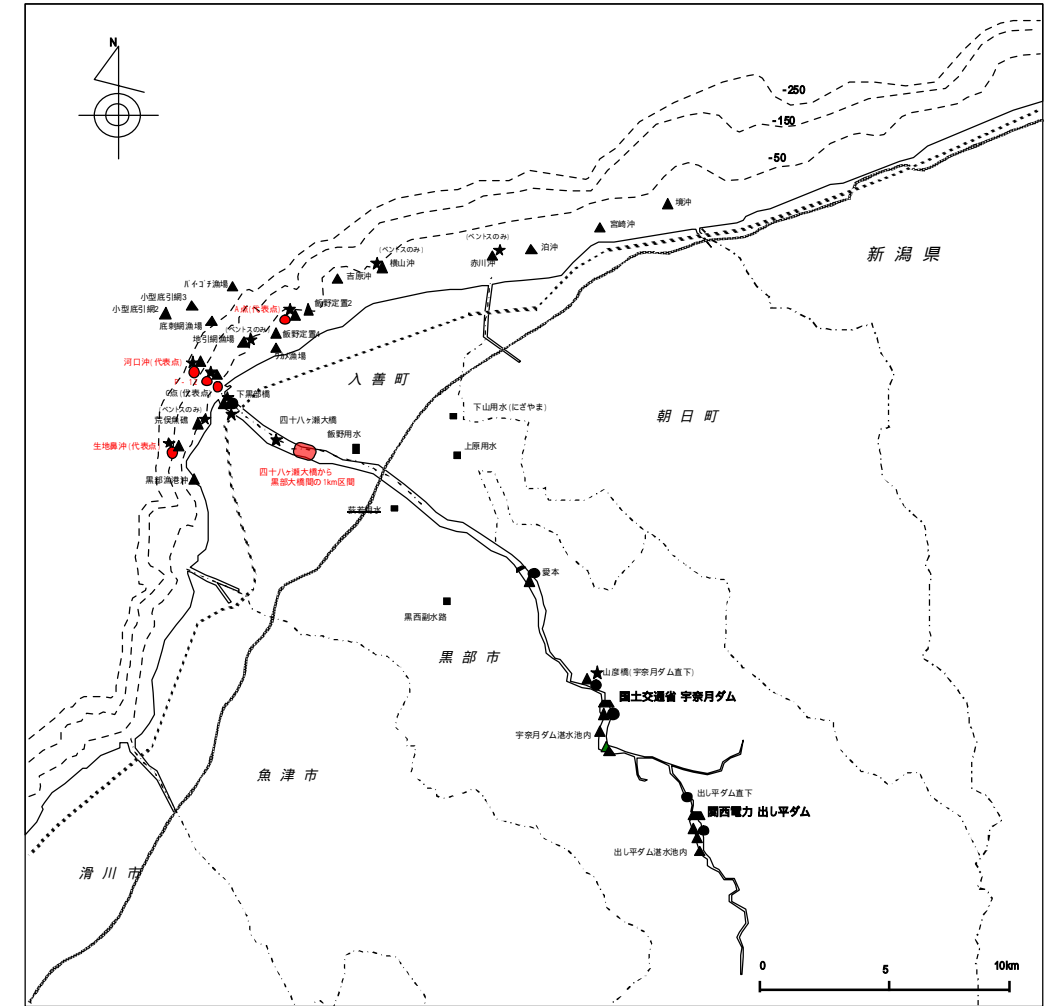
(凡例) : 調査頻度、 : 変更箇所

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
全体工程													
		定期調査		排砂・通砂中			定期調査		定期調査				
ダム湖	水質			排砂・通砂の1日後									
	底質			排砂・通砂の1日後									
河川	水質			排砂・通砂中および1日後									
	底質												
	水生生物												
用水路	底質												
海域	水質			排砂・通砂中および1日後									
	底質			排砂・通砂の1日後 (代表4地点)									
	水生生物												
湛水池内横断測量				(排砂・通砂後速やかに実施)									

環境調査の変更点

		H 22年度調査	検討内容	H 23年度調査 (計画)
水生生物	河川	土砂堆積調査 排砂時のみ	[土砂堆積調査を見合わせる] これまでの調査結果より排砂後・通砂後の措置による効果を確認できたため、今後は過去調査実績最大排砂量を目安として、実施を判断する。	調査を実施しない
水質調査	海域	濁度連続観測 (代表4地点) A点、 C点、河口沖、生地鼻沖	[C点およびC'点を代表として濁度連続計測を行う。] ・C点により濁度流入ピークが把握でき、C点以外は明確なピークが把握できない。 ・C点のバックアップ用をP-12点に設置する。	濁度連続観測 (代表点) C点 (バックアップ) P-12点

調査位置図



調査内容 (前年度からの変更点)

変更箇所

調査項目・地点			調査内容	直前	排砂・通砂中(排砂ゲート開~排砂・通砂後の措置完了1日後)	抑制策中	定期調査	定期調査	備考			
項目	地点名			5月		9月	9月	11月				
水質調査	ダム	1ヶ所	出し平ダム湛水池内(水深方向2層<表・底層>)	水温、pH、COD、DO、SS		-	-	-				
		1ヶ所	宇奈月ダム湛水池内(水深方向2層<表・底層>)			-	-	-				
	河川	2ヶ所	出し平ダム直下、宇奈月ダム下流	濁度連続観測		-	← 連続観測 →	-	-	-		
		1ヶ所	出し平ダム直下(排砂中の速報は、出し平ダム直下の濁度とDO)	水温、pH、BOD、COD、DO、SS、濁度、T-N、T-P、SS粒度(BOD、CODは3時間毎でDO最小付近は1時間毎)(濁度は、全地点)(T-N、T-P、SS粒度は排砂中5回)		← 体制が整ってから3h毎 →	← 毎正時 →	← 6h毎 →	-	-	-	: 排砂・通砂中に準ずる
		1ヶ所	山彦橋(宇奈月ダム直下)(排砂中の速報は、宇奈月ダム直下の濁度とDO)			← 体制が整ってから3h毎 →	← 毎正時 →	← 6h毎 →	-	-	-	: 排砂・通砂中に準ずる
		1ヶ所	愛本			← 体制が整ってから3h毎 →	← 毎正時 →	← 6h毎 →	-	-	-	: 排砂・通砂中に準ずる
		1ヶ所	下黒部橋			← 体制が整ってから3h毎 →	← 毎正時 →	← 6h毎 →	-	-	-	: 排砂・通砂中に準ずる
		2ヶ所	その他(猫又、黒雑川)			-	← 体制が整ってから適宜 →	-	-	-	-	: 排砂・通砂中に準ずる
	海域	2-4ヶ所	(代表1-4地点) A点、C点、P-12点、河口沖、生地鼻沖			濁度連続観測	← 連続観測 →	-	-	-	-	
		4ヶ所	(代表4地点) A点、C点、河口沖、生地鼻沖	水温、塩分、pH、COD、DO、SS		-	← 連続観測(30分インターバル)この間の日中で3回測定(9:00、13:00、17:00) →	-	-	-		
21ヶ所		石田沖、P-2、P-4、P-6、P-9、C'点、P-10、P-12、P-15、P-16、P-17、P-19、吉原15、P-20、横山20、M-8、M-10、赤川沖、泊沖、宮崎沖、境沖	COD、SS	-	← 連続観測(30分インターバル)この間の日中で3回測定(9:00、13:00、17:00) →	-	-	-				
底質調査	ダム	2ヶ所	出し平ダム湛水池内	外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP、硫化物、強熱減量	-	-	-	-				
		4ヶ所	宇奈月ダム湛水池内		-	-	-	-				
	河川	3ヶ所	山彦橋(宇奈月ダム直下)、愛本、下黒部橋	外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP	-	-	-	-				
	用水路	3ヶ所	飯野用水、下山用水、黒西副水路	堆積量	-	-	-	-				
	海域	4ヶ所	(代表4地点) A点、C点、河口沖、生地鼻沖	外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP、硫化物	-	-	-	-	-			
16ヶ所		黒部漁港内、荒俣魚礁、地引網漁場、底刺網漁場、小型底引網2、小型底引網3、ワカ漁場、飯野定置4、飯野定置2、ハコチ漁場、吉原沖、横山沖、赤川沖、泊沖、宮崎沖、境沖	外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP、硫化物	-	-	-	-	-				
水生生物	河川	2ヶ所	山彦橋(宇奈月ダム直下)、下黒部橋	魚類、底生動物、付着藻類、カワブユ	-	-	-	-				
		2ヶ所	下黒部橋、四十八ヶ瀬大橋	魚類	← 連続監視 →	-	-	-				
		1ヶ所	四十八ヶ瀬大橋から黒部大橋間の1km区間	土砂堆積調査	-	-	-	-	8月	排砂時のみ実施		
	海域	4ヶ所	(代表4地点) A点、C点、河口沖、生地鼻沖	動・植物プランクトン、カワブユ	-	-	-	-	-			
8ヶ所		A点、C点、河口沖、生地鼻沖、荒俣魚礁、地引網漁場、横山沖、赤川沖	底生動物(マコト)	-	-	-	-	-				
監視	ダム	1ヶ所	出し平ダム	ITVによるビデオ撮影	-	← 連続監視 →	-	-	-			
		1ヶ所	宇奈月ダム	ITVによるビデオ撮影	-	← 連続監視 →	-	-	-			
	全体	黒部川水系及び近隣河川流域(近隣河川は海域のみ)	ヘリコプターによるビデオ・写真撮影	-	← 連続監視 →	-	-	-	-	原則 排砂時のみ実施		
測量	ダム	39断面	出し平ダム堆砂測量	横断測量	-	-	-	-	12月	: 速やかに実施		
		29断面	宇奈月ダム堆砂測量	横断測量	-	-	-	-	12月	: 速やかに実施		

特記事項

排砂後の措置中の宇奈月ダムから下流の河川域の水質調査については、自然流下中調査に準じた頻度で実施する。
 抑制策中の海域水質調査については、排砂・通砂中に準じた頻度で実施する。
 排砂・通砂中のDO測定にはDOメーターを併用する。
 魚類調査における調査地点は上表を基本とするが、実施に際しては河川状況に応じて決定する。
 短時間集中豪雨対策細砂通過放流における環境調査は、出し平ダム直下、宇奈月ダム下流、海域C点、P-12点で濁度連続観測を行う。
 なお、連続濁度計が故障し、短時間集中豪雨対策細砂通過放流の実施時に使用不可となった場合には、代替の計測方法・地点にて環境調査を実施する可能性がある。
 排砂・通砂が中止となった場合は、実施機関で状況を総合的に判断し、その後の適切な環境調査の実施を行う。
 排砂期間中、各種対策後に全区間測量ができなかった場合、9月に全区間測量を実施する。
 当該年度の土砂堆積調査については、過去調査実績最大排砂量を目安として実施を判断する。

調査内容

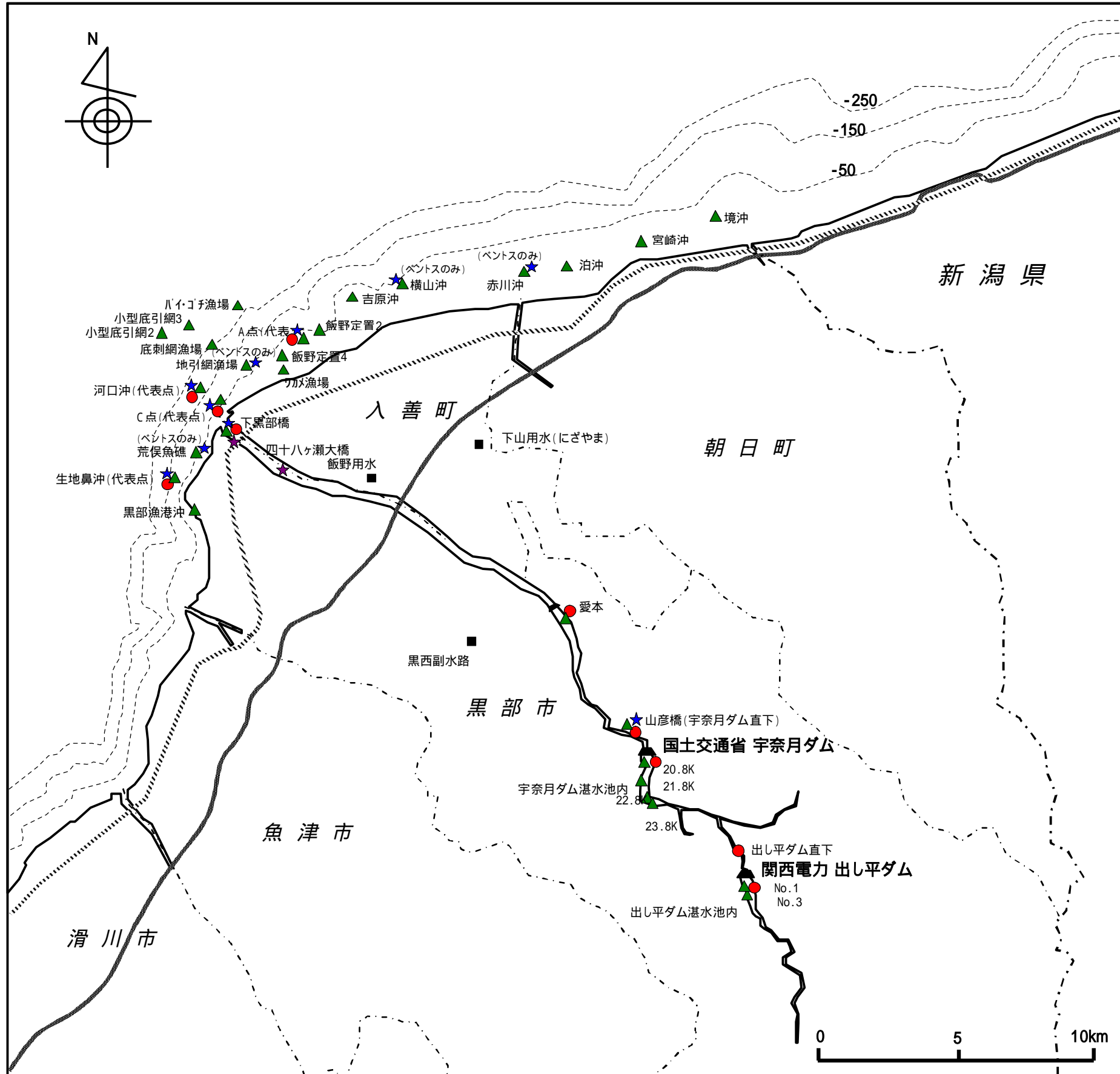
調査項目・地点			調査内容	定期調査 5月	直前	排砂・通砂中(排砂ゲート開~排砂・通砂後の措置完了1日後)	抑制策中 9月	定期調査 9月	定期調査 11月	備考		
項目	地点名											
水質調査	ダム	1ヶ所	出し平ダム湛水池内(水深方向2層<表・底層>)	水温、pH、COD、DO、SS								
		1ヶ所	宇奈月ダム湛水池内(水深方向2層<表・底層>)									
	河川	2ヶ所	出し平ダム直下、宇奈月ダム下流	濁度連続観測	-		← 連続観測 →					
		1ヶ所	出し平ダム直下 (排砂中の速報は、出し平ダム直下の濁度とDO)	水温、pH、BOD、COD、DO、SS、濁度、T-N、T-P、SS粒度 (BOD、CODは3時間毎でDO最小付近は1時間毎) (濁度は、全地点) (T-N、T-P、SS粒度は排砂中5回)			← 体制が整ってから3h毎 → 毎正時 → 6h毎 →					: 排砂・通砂中に準ずる
		1ヶ所	山彦橋(宇奈月ダム直下) (排砂中の速報は、宇奈月ダム直下の濁度とDO)				← 体制が整ってから3h毎 → 毎正時 → 6h毎 →					: 排砂・通砂中に準ずる
		1ヶ所	愛本				← 体制が整ってから3h毎 → 毎正時 → 6h毎 →					
	1ヶ所	下黒部橋			← 体制が整ってから3h毎 → 毎正時 → 6h毎 →							: 排砂・通砂中に準ずる
	2ヶ所	その他(猫又、黒糠川)	水温、pH、DO、濁度、SS、BOD、COD、T-N、T-P	-	← 体制が整ってから適宜 →						: 排砂・通砂中に準ずる	
	海域	2ヶ所	(代表1地点)C点、P-12点	濁度連続観測	-		← 連続観測 (30分インターバル) →					
		4ヶ所	(代表4地点)A点、C点、河口沖、生地鼻沖	水温、塩分、pH、COD、DO、SS			← この間の日中で3回測定 (9:00、13:00、17:00) →					
21ヶ所		石田沖、P-2、P-4、P-6、P-9、C'点、P-10、P-12、P-15、P-16、P-17、P-19、吉原15、P-20、横山20、M-8、M-10、赤川沖、泊沖、宮崎沖、境沖	COD、SS	-	← この間の日中で3回測定 (9:00、13:00、17:00) →							
底質調査	ダム	2ヶ所	出し平ダム湛水池内	外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP、硫化物、強熱減量								
		4ヶ所	宇奈月ダム湛水池内									
	河川	3ヶ所	山彦橋(宇奈月ダム直下)、愛本、下黒部橋	外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP								
	用水路	3ヶ所	飯野用水、下山用水、黒西副水路	堆積量								
海域	4ヶ所	(代表4地点)A点、C点、河口沖、生地鼻沖	外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP、硫化物									
	16ヶ所	黒部漁港内、荒俣魚礁、地引網漁場、底刺網漁場、小型底引網2、小型底引網3、カガ漁場、飯野定置4、飯野定置2、ハイゴチ漁場、吉原沖、横山沖、赤川沖、泊沖、宮崎沖、境沖	外観、臭気、粒度組成、pH、COD、T-N、T-P、ORP、硫化物									
水生生物	河川	2ヶ所	山彦橋(宇奈月ダム直下)、下黒部橋	魚類、底生動物、付着藻類、カワブユ								
		2ヶ所	下黒部橋、四十八ヶ瀬大橋	魚類	←					8月		
	海域	4ヶ所	(代表4地点)A点、C点、河口沖、生地鼻沖	動・植物プランクトン、カワブユ								
		8ヶ所	A点、C点、河口沖、生地鼻沖、荒俣魚礁、地引網漁場、横山沖、赤川沖	底生動物(マコバントス)								
監視	ダム	1ヶ所	出し平ダム	ITVによるビデオ撮影	-	← 連続監視 →						
		1ヶ所	宇奈月ダム	ITVによるビデオ撮影	-	← 連続監視 →						
	全体	黒部川水系及び近隣河川流域(近隣河川は海域のみ)	ヘリコプターによるビデオ・写真撮影	-	← 出し平ダム自然流下中 宇奈月ダム自然流下中 →					原則 排砂時のみ実施		
測量	ダム	39断面	出し平ダム堆砂測量	横断測量						12月 : 速やかに実施		
		29断面	宇奈月ダム堆砂測量	横断測量						12月 : 速やかに実施		

特記事項

排砂後の措置中の宇奈月ダムから下流の河川域の水質調査については、自然流下中調査に準じた頻度で実施する。
 抑制策中の海域水質調査については、排砂・通砂中に準じた頻度で実施する。
 排砂・通砂中のDO測定にはDOメーターを併用する。
 魚類調査における調査地点は上表を基本とするが、実施に際しては河川状況に応じて決定する。
 細砂通過放流における環境調査は、出し平ダム直下、宇奈月ダム下流、海域C点、P-12点で濁度連続観測を行う。
 なお、連続濁度計が故障し、細砂通過放流の実施時に使用不可となった場合には、代替の計測方法・地点にて環境調査を実施する場合がある。
 排砂・通砂が中止となった場合は、実施機関で状況を総合的に判断し、その後の適切な環境調査の実施を行う。
 排砂期間中、各種対策後に全区間測量ができなかった場合、9月に全区間測量を実施する。
 当該年度の土砂堆積調査については、過去調査実績最大排砂量を目安として実施を判断する。

定期調査(5月・9月・11月)

凡例



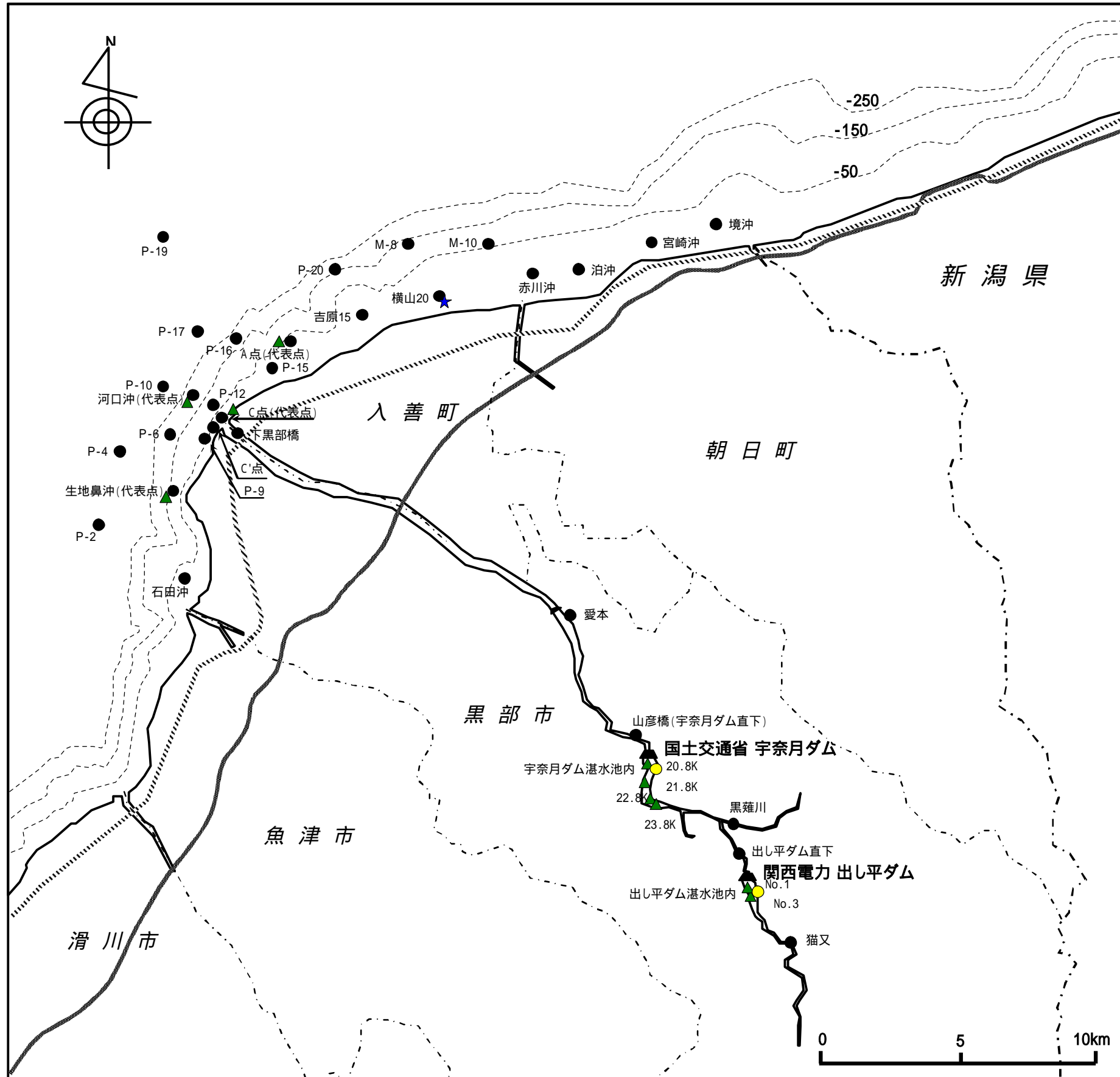
- : 水質調査 1
(ダム2、河川5、海域4)
- ▲ : 底質調査 1
(ダム6、河川3、海域20)
- : 堆積量調査 1
(用水3)
- ★ : 水生生物調査 2
(定期調査)
(河川2、海域8)
- ★ : 水生生物調査 3
(5月～8月調査)
(河川2)

1 : 5月、9月の2回実施

2 : 5月、9月、11月の3回実施

3 : 5月～8月の間、概ね2回/月実施

排砂中調査



- 凡例
- : 水質調査
(河川 7)
(海域 2 5 <4+21>)
(海域濁度連続観測: 2地点)
 - : 水質調査
(ダム 2) : 排砂1日後のみ
 - ▲ : 底質調査
(ダム 6) : 排砂1日後のみ
(海域 4) : 排砂1日後のみ

排砂・通砂に伴う過年度環境調査一覧表 (1 / 4)

調査項目	調査内容	調査目的	調査地点	調査時期	整理番号	調査年度												終了または継続	調査の結論			
						平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度			平成19年度	平成20年度	平成21年度
ダム	水温、pH、COD、DO、SS	排砂に伴うダム湛水池の水質調査を実施する。	1ヶ所 出し平ダム湛水池内（水深方向2層<表・底層>）	5月、9月、排砂1日後	1														継続	（継続調査中）		
			1ヶ所 宇奈月ダム湛水池内（水深方向2層<表・底層>）	5月、9月、排砂1日後	2															継続	（継続調査中）	
	水温、pH、BOD、COD、DO、SS、濁度、T-N、T-P、SS粒度 （BOD、CODは3時間毎でDO最小付近は1時間毎） （濁度は、全地点） （T-N、T-P、SS粒度は排砂中5回）	排砂に伴う河川の水質調査を実施する。	1ヶ所 出し平ダム直下（排砂中の速報は、出し平ダム直下の濁度とDO）	5月、9月、排砂中、排砂1日後	3															継続	（継続調査中）	
			1ヶ所 山彦橋（宇奈月ダム直下）（排砂中の速報は、宇奈月ダム直下の濁度とDO）	5月、9月、排砂中、排砂1日後	4																継続	（継続調査中）
			1ヶ所 愛本	5月、9月、排砂中、排砂1日後	5																継続	（継続調査中）
			1ヶ所 下黒部橋	5月、9月、排砂中、排砂1日後	6																継続	（継続調査中）
	水温、pH、DO、濁度、SS、BOD、COD、T-N、T-P	（排砂・通砂中の調査に準じる）	2ヶ所 その他（猫又、黒薙川）	排砂中、排砂1日後	7															継続	（継続調査中）	
	7ヶ所 （排砂・通砂中の調査に準じる）		出水時	8																終了	出水時調査については、これまでデータの蓄積ができたこと、今後も上流地点である猫又・黒薙川において排砂・通砂時に調査を行うことから、出水時の調査は終了とする。	
沈砂池 用水路	水温、pH、COD、塩分、SS	排砂に伴う合口ダム沈砂池の水質を把握する。	2ヶ所 愛本合口ダム左右岸沈砂池出口	5月、9月、11月	9														終了	排砂期間前後の変化はほとんどみられない。		
		排砂に伴う用水路の水質を把握する。	4ヶ所 樽山（くぬぎやま）上流、入善下流、金屋用水、黒西副用水	5月、9月、11月	10															終了	概ね河川水に近い値を示している。	
海域	濁度連続観測	排砂に伴う海域の水質を把握する。	4ヶ所 （代表4地点）A点、C点、河口沖、生地鼻沖	5～9月	11														継続	（継続調査中）H23年度以降は「C点およびC'点を代表として濁度連続計測を行う。C点により濁度流入ピークが把握でき、C点以外は明確なピークが把握できない。C点のバックアップ用にC'点を設置する。		
	水温、塩分、pH、COD、DO、SS		4ヶ所 （代表4地点）A点、C点、河口沖、生地鼻沖	5月、9月、排砂中、排砂1日後	12															継続	（継続調査中）	
	COD、SS		21ヶ所 石田沖、P-2、P-4、P-6、P-9、C'点、P-10、P-12、P-15、P-16、P-17、P-19、吉原15、P-20、横山20、M-8、M-10、赤川沖、泊沖、宮崎沖、境沖	排砂中、排砂1日後	13															継続	（継続調査中）	
	小川の濁り調査		13ヶ所 小川河口付近	排砂（出水）時	14															終了	小川での濁りのピークが夜間であり、海域での採水を実施しておらず、海域における小川からの濁りの拡散状況を把握できなかった。No.27へ引き継ぐ	
	セジメントトラップ		1ヶ所 C点	5～9月	15															終了	排砂通砂時と出水時の調査結果の比較では、H16年7月と9月の分析値に大きな差異はない。水深別に調査結果を比較すると、H17年8月及びH18年5月の調査結果からは、水深による分析値の差異は見られない。よって、本試験によって一定の成果が得られたと考える。	
流速測定	4ヶ所 （代表4地点）A点、C点、河口沖、生地鼻沖	排砂中	16																終了			

(備考)
1 上記の過年度調査は、調査最終年に実施した内容を記載している。調査最終年以前の調査地点ならびに調査内容等の軽微な変更は反映していない。

排砂・通砂に伴う過年度環境調査一覧表 (3 / 4)

調査項目	調査内容	調査目的	調査箇所・地点	調査時期	整理番号	調査年度												終了 または 継続	調査の結論	
						平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度			平成19年度
河川 3水生生物	魚類、底生動物、付着藻類、カワブユ	排砂に伴う河川の水生物調査を実施する。	2ヶ所 山彦橋(宇奈月ダム直下)、下黒部橋	5月、9月、11月	28	[調査実施]												継続	(継続調査中)	
	魚類		2ヶ所 下黒部橋、四十八ヶ瀬大橋	5～9月	29	[調査実施]												継続	(継続調査中)	
	付着藻類	出水や排砂前後での付着藻類の活着、剥離状況を把握する。	1ヶ所 下黒部橋	5～8月	30														終了	排砂および出水以降の採取細胞数は排砂の影響で一時的に減少するものの、その後短期間に回復する。
	降下調査	魚の降下、排砂中の魚の動きなど全体的な傾向を把握する。	5ヶ所 山彦橋(宇奈月ダム直下)、下黒部橋、愛本橋、新川黒部橋、四十八ヶ瀬大橋	排砂1週間後、1月	31														終了	いずれの地点も、今年の間調査で初めて確認された種は無かった。
	瀬・淵調査	河川の瀬・淵は魚類の生息等に重要な場であることから、排砂の実施による瀬・淵の変化を把握する。	3ヶ所 下黒部橋上流左岸、四十八ヶ瀬大橋下流左岸、新川黒部橋上流左岸	排砂前、排砂後	32														終了	調査実施予定日において、流量、流速、濁り等の条件により調査(測線設定や試料の採取、カメラ撮影)を十分に実施できなかった等、変化の有無が明確に把握できなかった。
	アユの生息実態調査(採捕)	アユの生息密度や成長過程を把握する。	5ヶ所 下黒部橋右岸、四十八ヶ瀬大橋、権蔵橋、下立地区、音沢橋	月2回及び排砂後、出水後	33														終了	下黒部橋下流は、種類数及び採捕尾数ともに四十八ヶ瀬大橋より多い。アユの主な生息範囲は、概ね四十八ヶ瀬大橋下流域に限定される。過年度の傾向として、連携排砂に伴う大規模な出水後は、体重、肥満度は減少傾向にあり、約1ヶ月後は回復傾向を示している。
	アユの生息実態調査(胃内容物)	アユが食べているものを把握する。	8ヶ所 下黒部橋右岸、下黒部橋左岸、四十八ヶ瀬大橋、黒部大橋、権蔵橋、新川黒部橋、愛本橋、音沢橋	月2回及び排砂後、出水後	34														終了	大きい出水直後は胃充満度は低下するが、その後は概ね1ヶ月程度で上昇傾向が見られた。放流の可能性の高い種は、藻類の摂餌量が少なく、水生昆虫の量が少なかった。体長150mm以上の放流個体の胃充満度が低い傾向が見られた。
	アユの生息実態調査(耳石)	耳石のパターンを見ることによって、一度海域まで降下、流出したアユが再遡上しているかどうか検証、及び採捕アユが天然遡上か放流種かを把握する。	4ヶ所 下黒部橋右岸、下黒部橋左岸、四十八ヶ瀬大橋、音沢橋	排砂後、出水後	35														終了	大きな出水時に海域に流出後、河川に再遡上した履歴を有すると考えられる個体は約8%であり、流出した個体が海域中に滞在した期間は約16～18時間であった。データが少なく断定できないが、再遡上する個体は天然遡上個体の割合が高かった。出水による海域への流出により、アユが塩分濃度差により斃死する事がない事を確認した。
	アユの生息環境調査(付着藻類:一定面積)	付着藻類の現存量、種の推移を把握する。	5ヶ所 下黒部橋右岸、下黒部橋左岸、四十八ヶ瀬大橋、権蔵橋、愛本橋	月2回及び排砂後、出水後	36														終了	藻類の種類数は排砂後に減少するが、約1週間後に珪藻、2週間後に藍藻が付着し、1ヶ月後には回復することが判った。黒部川の付着物組成に細粒分が多いのは、付着藻類の生長に伴い、定常的に流下するウォッシュロード成分を補足する事による。付着藻類は出水によって剥離してしまう。出水により、付着藻類が大量の細粒土砂を捕捉し、生育が阻害されるという現象は無かった。黒部川のクロロフィルa量は下流域を除き、他河川と比較し非常に少ない。
	アユの生息環境調査(産卵床)	産卵増進に向けアユの産卵床の状況を把握する。	2ヶ所 河口から四十八ヶ瀬大橋の2.8km区間	10月	37														終了	アユの産卵床として最適条件は、浮き石状態で粒径が比較的小さい河床。アユの主要な産卵場は河口から1.2km地点と推定した。
	アユの生息環境調査(摂餌環境)	摂餌環境を調査し、何を食べているかを把握する。	2ヶ所 下黒部橋右岸、四十八ヶ瀬大橋	5～8月	38														終了	年間を通じて、胃内容物中の有機物(デトリタスが主成分と考えられる)と無機物(細粒土砂分)の比は2:8と一定であり、排砂・通砂に伴う出水前後で大きな変化は見られなかった。黒部川では礫付着物の大半がデトリタスであるが、エネルギーとしてはそれなりに有効な餌である事が考えられる。
	魚類忌避行動調査	出・洪水時、排砂時に魚類が忌避行動によって対比する状況や待避ヶ所の特徴を把握する。	18ヶ所 四十八ヶ瀬大橋から黒部大橋間の1km区間		39														終了	アユ、ウグイを始めとした魚類により、出水時並びに自然流下直後の退避が確認され、特にSS濃度が増加した自然流下直後の退避が多く確認された。また、下流域では退避個体が多い事を確認した。
	土砂堆積調査	排砂前後の河道内の土砂堆積状況の変化を把握する。	1ヶ所 四十八ヶ瀬大橋から黒部大橋間の1km区間	排砂前、排砂(自然流下)後、排砂後の措置後	40														終了	H23年度以降は土砂堆積調査を見合わせる。これまでの調査結果より排砂後・通砂後の措置による効果を確認できたため、今後は過去調査実績最大排砂量を目安として、実施を判断する。
用水路	付着藻類	水路床に付着する水生植物と排砂との関係を調査する。	5ヶ所 上原用水、飯野用水、下山用水、黒西副水路	5月、9月、11月	41													終了	水路床の植物は主としてウスキシメリゴケであった。この種は国内では北海道から本州にかけて広く分布し、溪流沿いの湿った岩上や砂礫上などに緑色あるいは褐色がかかったマットを作るゴケの一種で、胞子から生長する植物であることから、排砂の影響で新たに植生するようになった種であるとは考えにくい。	
海域	底生動物(マコバントス)、動植物プランクトン、カワブユ	排砂に伴う海域の水生物調査を実施する。	4ヶ所 (代表4地点) A点、C点、河口沖、生地鼻沖	5月、9月、11月	42	[調査実施]												継続	(継続調査中)	
	底生動物(マコバントス)		4ヶ所 荒俣魚礁、地引網漁場、横山沖、赤川沖	5月、9月、11月	43	[調査実施]												継続	(継続調査中)	
	珪藻殻調査	海域に流出する土砂の起源あるいは土砂の拡散を考察する方法として、珪藻殻に着目し、基礎的調査を行う。	2ヶ所 黒部川、小川河口付近	5月、9月、11月	44													終了	黒部川と小川の珪藻種の類似性が高く、各河川固有の珪藻の指標種を見つけることが難しい。	

(備考)
1 上記の過年度調査は、調査最終年に実施した内容を記載している。調査最終年以前の調査地点ならびに調査内容等の軽微な変更は反映していない。

